

2010年(平成22年)3月26日 産経新聞より

「大陸への関与は抑制的に」 産経志塾で 渡辺拓大学長

「日本の安全保障が完璧で、国民が幸せな時代がこの百数十年間に二つあった。一つはもちろん、日米同盟に守られたこの60年ほどの現代。もう一つが日英同盟下の明治末から大正期だ」。25日に始まった「産経志塾」の講義で、渡辺利夫拓殖大学学長は、近代史から導かれる教訓を強調した。写真(栗橋隆悦撮影)。

渡辺氏は、日英同盟廃棄後の日本が中国大陸に深く介入し、戦線を広げた末に自滅した例を挙げ、「海洋国家との同盟を離れ、大陸と深く関与することには抑制的でなければならぬ」との見解を示した。

また、「世界で最も力を持っている覇権国と同盟するのが、日本外交の基軸。しかし、この同盟が今、日本側の怠惰で劣化しつつある」と、日米関係の現状を警告した。

東京都杉並区から参加した明治大1年の古望(こぼう)亜実(あみ)さん(19)は「日中関係などの問題の理解がより詳しく深まった。表面的知識ではない裏の事情が分かってよかった」と話した。

